
仲直り

クノウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
仲直り

【Nコード】
N1808A

【作者名】
クノウ

【あらすじ】
最終兵器彼女のタケサイドのストーリー。

やっちゃった……

せつかくのゆかりの誕生日だったのに……

『ごめんな……』

……

……

……

……

……

「おい、どうしたんだよタケ。ゆかりちゃん、なんだか怒ってるぞ？」

「そうだよ、二人とともつても仲が良かったじゃないか。」
アツシとノリちゃんだった

「はあ…、やっぱりまだ怒ってるか。」

「おい、何かあったのか？」

「少しなら相談に乗るよ。」

「ああ、それがさ……」

俺は、二人に何があったのかを話した

「それは…なんと言うか（汗）」

「災難だったな（汗）」

「ああ……」

まあ、待ち合わせ場所に行く直前に色々あって、結果として約束の時間に遅れてしまった。

案の定ゆかりはご立腹。それからは口すらまともにきいてくれない。

放課後

「おいっ、ゆかり!!」

「離してよ、私には話すことなんてないんだから。」

「だから、あの日はたまたま待ち合わせ場所に行く途中に、」

「言い訳なんか聞かない!!」

この間からこの調子だった。

こうなったら、『アイツ』に頼もう。

なんとかこの状況を打破したい。その一心で頼んだ。

そう……

『アイツ』に。

「あんた馬鹿？」

口を開けて一言目それだった

目の前にいるのはアケミだった。

ゆかりとまともに話が出来ていない今、こいつに頼るしかなかった。せめて“仲直り”の仲介役にでもなってくれれば……

そう思い、すべてを包み隠さずに話たのにこの一言は痛かった。

「シユウジのアホと違って、あんたは女心をわかってっるもんだと思っただけど……」

「何だよ？」

「男って、やっぱりアホね。」

そんなこと言われてしまった。

「あんた、ゆかりがどうして怒ってるか分らないの？」

「それは、俺が待ち合わせの時間に遅れて、結局映画も見れなく『そんな事じゃないわよ！』」

「じゃあ、何が悪いんだよ。」

「そんなの自分で考えなさいよね。遅れてきたのには事情があるっ。それは、あの子だって分かっている筈だから。」

「……………」

「どうせ、あの子も意地になっただけだから、すぐに仲直りできるとは思っけど、あまり長引かせないでよね。こっちにまでとばっちりがくるんだから。」

「分かったよ。」

やっぱりアケミに話してよかったかもしれない。胸の重みが少し軽くなったような気がした

「うん。自分で何とか解決してみせるよ。ありがとな、アケミ。」

「……………」

タケのその言葉に、アケミは手すりに寄りかかったまま振り向かず
に手を振って返した。

「はあゝ ゆかりも何を意地になってるんだか。何でもかんでもあ
たしに相談するなんて“みんな”馬鹿ばかりなんだから。」

“みんな”の中には、当然自分も入っている。自分の恋心すらどう
にもできないのに、他人の恋路に何で口出ししなければいけないの
か、複雑な心境だった。

「……で？」 「なんで俺たち……」 「電車に乗ってるんすかねえ!？」
順にアツシ、タケ、ノリであった

「別にいいだろ? どうせお前ら暇だったんだから。」

まあ、そのとおりだけど……

今日は突然、『ちせが、用事ができて一緒に買い物に行けなくなっ
たからお前ら来いよ。どうせ暇だろ?』のシュウジからの一本の電
話で予定が決まってしまった

まあ、これには俺にも都合がよかったりするんだけど。

「おい、タケ!」

「なんだ? アツシ。」

「お前、ゆかりちゃんの事どうするんだ?」

「その事が……」

すでに二人の喧嘩?が始まって一週間は経つ。そろそろ決着を着け
なければと考えていた。

だって…怖いんだもん!! 特にアケミとか、アケミとか、アケミ
とか……… 後、そのとり巻き(涙

とまあ、この一週間は何も出来ていなかった

「まあ、大丈夫だよ。俺だってこれ以上長引かせて心配かけるわけにも行かないし、早く『仲直り』したいからな。」

「…………、がんばれよっ！」

「おうー！」

アケミに相談してからいろいろと考えていたけど、どうもいい考えが浮かばなかった俺は、今日の買い物でなにかプレゼントを買い取るとを考えていた。

札幌駅に着くと近くのデパートに行き、そこで個別での行動になった。一時間ほどは自由に見てその後はみんなで回ろうということだ
「じゃあ、一時間後にここに集合な。」「ああ。」「OK」

さて、俺は…………と「おい、タケ。一緒に見て回らないか？」

「わりい、シュウジ。俺、ちょっと目当てのものがあるからさ。」

「ん…そうか、じゃ仕方ないな。」

「悪いな。」「別に。じゃ、一時間後に。」「なあ、シュウジ…」
俺は声をかけていた。理由は分からないけど言っておきたかった
「今日は、誘ってくれたありがとな。」

「何だよ突然？」

「いや、深い意味はないんだけど…」

なんとなく胸騒ぎがした　よく分からないけど、不安になった。

俺は、そんな気持ちを振り払うように店へ向かった

一時間が経った。

目当てのものを買い取ることができ、明日にはゆかりと仲直りができる
ちょっと前——ほんの数分前まではそう思っていた。

何が起ったかよく分からなかった

周りの様子がゆっくり見える

聞こえてくる悲鳴も、飛行機の音も、爆撃の音も、遠くのことのようだった

上を見上げる俺の目の前には巨大なコンクリートの——塊
“グシャッ”

理解したときには遅かった

『ごめんな……ゆかり。』

せめて一言

君に

謝りたかった

〈END〉

（後書き）

かなりシリアスになりましたが、書きたいことは書けたので満足はします。

アニメ版のSSなので、見えない人はぜひ見てください。>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1808a/>

仲直り

2010年10月14日11時00分発行